


アカデミック英語 No.3

英語面接・口頭試問で論じる


—— 30秒で構造化された答えを返す


 **今日のゴール**：英語面接・口頭試問で「30秒以内に構造化された答えを返す」PREP法（Point→Reason→Example→Point）を習得する。医学部入試頻出の質問テーマへの英語回答フレームを身につけ、即興で論理的に話せるようになる。

 この授業の問い


1. なぜ面接で「まず結論を言う」ことが重要なのか？
2. PREP法を使うと何が変わるのか？使わないとどうなるか？
3. 「Why do you want to become a doctor?」に30秒で答えるには？

※ 授業後にもう一度この問いを見て、答えを書いてみよう。

 PREP法：30秒で構造化された答えを返すフレームワーク

 **PREP = Point → Reason → Example → Point（再強調）**

Point — **結論を最初に言う**（1文・15秒以内） **Reason** — **理由を述べる**（なぜそう思うか・1～2文） **Example** — **具体例・経験**（エピソード・データ・1～2文） **Point** — **結論を再強調**（1文・まとめ）

 **なぜ結論を最初に？**：面接官は多くの受験生の答えを聞く。「何が言いたいのか分からない長い前置き」は最悪の印象。最初の1文で「この人は何を言おうとしているか」が分かると、聞き手が安心して残りを聞ける。日本語の結論後置型とは真逆の発想。

採点者の視点

採点者はここを見ている —— 英語面接・口頭試問・構造化で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ答えでも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しい内容を書いても、論理の構造が見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

英語面接・口頭試問・構造化では、30秒回答の構造化根拠の理解が答案の質を大きく左右します。

② 英語面接・口頭試問・構造化で採点者が見ているポイント

「Point→Reason→Exampleの構造で30秒以内にまとめた」と示した答案が採点者に「構造的に考えている」と映る

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「論理を俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所